

入試情報

募集人員、出願要件、選抜方法などの詳細は、必ず最新の募集要項で確認してください。(山口大学入学者選抜要項は7月上旬頃、学校推薦型選抜Ⅰ募集要項は9月下旬頃、一般選抜募集要項は11月下旬頃に公表する予定です。)

※令和7年度(令和6年度実施)入学者選抜より、入試変更がございますので、ご注意ください。

募集人員

	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜Ⅰ	帰国生徒入試
		前期日程	後期日程		
生物資源環境科学科	50	30	6	14*	若干名
生物機能科学科	50	31	9	10*	若干名

※生物資源環境科学科は“農業に関する学科”4名を、生物機能科学科は“農業、工業、水産に関する学科”1名を含んだ募集人員です。

学校推薦型選抜Ⅰ(共通テストを課さない)の出願要件

学習成績、人物ともに優れ、高等学校長が責任を持って推薦できる者で、合格した場合、入学を確約できる者が出願要件となります。

※他にも調査書の学習成績の状況等、学科や対象ごとに要件があります。

帰国生徒入試の出願要件

日本国籍を有する者または日本国の永住許可を得ている者で、外国において2年以上継続して学校教育を受けた者などが出願要件となります。

選抜方法

	一般選抜		学校推薦型選抜Ⅰ	帰国生徒入試
	前期日程	後期日程		
試験内容	大学入学共通テスト + 個別学力試験※	大学入学共通テスト + 個別学力試験(面接)	小論文 + 面接 + 出願書類	

※詳細は最新の募集要項をご確認ください。

過去3年間の志願倍率

(2024年3月現在)

入試年度	入試種別	生物資源環境科学科		生物機能科学科	
		募集人員	志願倍率	募集人員	志願倍率
令和4年度 入学者選抜試験	推薦入試	10*	2.2	10*	3.2
	前期日程	33	1.5	31	2.0
	後期日程	7	8.1	9	4.8
令和5年度 入学者選抜試験	推薦入試	10*	1.5	10*	1.6
	前期日程	33	2.4	31	2.0
	後期日程	7	8.9	9	8.7
令和6年度 入学者選抜試験	推薦入試	10*	2.9	10*	1.8
	前期日程	33	2.2	31	1.6
	後期日程	7	15.1	9	6.3

※生物資源環境科学科は“農業に関する学科”2名を、生物機能科学科は“農業、工業、水産に関する学科”1名を含んだ募集人員です。

このリーフレットは農学部学生広報部員が中心となって作成しています。



お問い合わせ先
入試に関するお問い合わせは下記をお願いします。

山口大学農学部学務係
〒753-8515 山口市吉田 1677-1
TEL: 083-933-5811 FAX: 083-933-5812
E-mail: aggakmu@yamaguchi-u.ac.jp
入試情報ホームページ
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/nyushi/



農学部

食と環境の未来をつくる



山口大学農学部HP

農学部はこんな学部です!

農学は、農業や食品生産業が抱える課題を生物学・物理学・化学等の視点から解決し、人類社会の持続的な発展を目指す学問です。

農学はいくつもの顔を持っています。食料や健康、生命現象、環境等を脅かす問題を生物学・化学・物理学・地学・数学等を駆使して解決します。

学科の特徴

生物資源環境科学科

農業に関する諸問題の解決方法を合理的に導き出し、効率のかつ安全で持続可能な食糧生産の実現を目指して幅広い分野の教育・研究を行っています。



実習での芋堀り

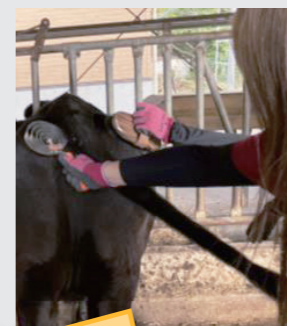


トマト苗の接ぎ木

講義では、植物の生理や栽培方法についてはもちろん、農地の土壌や気象、病害虫、食料の流通といった幅広い分野も総合的に学びます。さらに、学生実験や農場実習では農業を実践的に学び、理解を深めます。



畝のマルチ張り



牛のブラッシング



実験での土壌の断面分類

生物機能科学科

植物や微生物、動物のタンパク質の機能や先端バイオテクノロジーについて学び、人間の健康や環境改善に役立てる教育と研究を行っています。



試薬とサンプルの調整

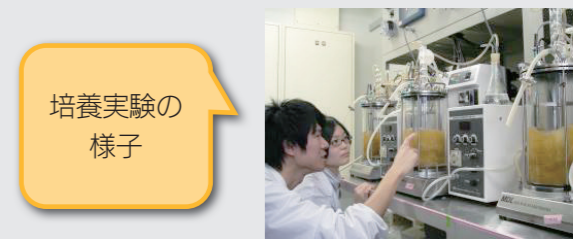


吸光度の測定

講義では、タンパク質の構造や機能、微生物・植物の生理機能など、生物・化学の専門的な内容を学びます。学生実験では、細胞や細菌への遺伝子導入、タンパク質やDNAの電気泳動などを行います。



細胞観察の様子



培養実験の様子



機器分析中の様子

©こんな学部です

研究テーマ一覧

生物資源環境科学科

- ・作物の多収性・高品質性についての生理生態学的解析
- ・乾燥地など耕作不良環境でストレスに強い作物栽培
- ・植物の代謝物を利用した新しい育種法の研究開発
- ・野菜・花きのゲノム育種および植物工場栽培に関する研究
- ・果樹の諸形質・遺伝に関する研究
- ・植物病原糸状菌の感染機構に関する研究
- ・イノシン・クマ等の生態学的研究と保護・管理への応用
- ・アジアにおけるシロアリの多様性維持に関する研究
- ・副産物石膏の農業的利用
- ・土壌有機物の微生物分解に対する安定化機構の解明
- ・降水雲および降雪雲内の雲物理学的直接観測研究
- ・画像による植物生体情報解析
- ・温室や植物工場における環境制御技術の開発
- ・植物病原微生物の診断・検出技術の開発

生物機能科学科

- ・微生物の持つ特異な機能の理解と利用
- ・微生物が行う酸化発酵の解析と利用
- ・微生物酵素の解析と有用素材生産への応用
- ・微生物の温度適応機構の解析と応用
- ・サンゴに共生する微生物の機能解明
- ・病原微生物の宿主への付着と定着
- ・植物の持つ新しい抗酸化物質の探索と利用
- ・植物代謝酵素の機能解析と有用物質生産への応用
- ・植物の香りの生成機構とその生理的役割の解明
- ・香りの機能性（動植物のフェロモンおよびアレロケミカル、ヒトの生理応答および嗜好性）に関する研究
- ・植物の光合成を調節するタンパク質の立体構造と機能の解析
- ・金属イオンの役割に着目した金属酵素反応機構の解析
- ・哺乳類神経筋システムの適応メカニズムに関する生理・生化学的研究
- ・昆虫食の健康機能性評価とアンチエイジング食品成分の探索
- ・植物の環境ストレス耐性機構の解明と応用
- ・ゲノムから見る微生物の環境適応と進化
- ・染色体倍化が植物の成長・生殖に及ぼす影響の解析

学生の研究紹介

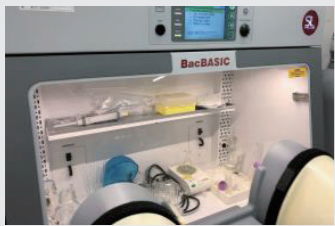
農学部

生物機能科学科
4年
高田 亜実



菌周病菌のヘム分解メカニズムの特定

病原性細菌は、感染した宿主のヘムを血中ヘモグロビンから奪い、ヘムを分解して生存に必須の鉄を獲得しています。私は菌周病菌由来の酸素が存在しない嫌気条件下でヘムを分解する酵素の働く仕組みを解明するために、嫌気ボックスの中で実験を行っています。この酵素の知見をもとに阻害剤が見つければ、菌周病菌の抗菌剤として活用できると期待しています。



嫌氣的に実験を行える装置

高校生へ一言

研究室に所属してから、様々な実験機器を使えるようになりました。実験が好きの方は多くのことを学べ、充実した日々が過ごせると思っています。



タンパク質の電気泳動を行う様子

**大学院
創成科学研究科**

農学系専攻
博士前期課程1年
黒田 絢子



植物病原菌の感染メカニズムの研究


私は植物に病気を引き起こす植物病原菌の感染メカニズムについて研究しています。病原菌が感染時に分泌するタンパク質を発見し、その機能を解析することでどのように感染を進めているのか探っています。病気が引き起こされることで生じる作物の生育阻害や収量低下を防ぐために日々研究しています。



実験に使用するトマトの栽培の様子

高校生へ一言

農学部では様々な分野の座学だけでなく、農場実習や実験もあり、幅広い知識と経験を得ることができます。大学ならではの実践的な内容を楽しみながら学んでください。



実際の実験室の様子

関連施設の紹介

農学部には、キャンパス内にある「附属農場」や制御された環境で植物の栽培技術を開発する「植物工場」があります。また、農学部と関連の深い施設として、地球温暖化に起因する課題について研究する「中高温微生物研究センター」があります。



附属農場



植物工場




中高温微生物研究センター

学科長からのメッセージ

生物資源環境科学科

教授
鈴木 賢士



農学は、高等学校で学ぶ物理・化学・生物・地学といった基礎自然科学の上に成り立っている応用科学です。多岐にわたる教育研究分野により構成される生物資源環境科学科では、人類の生存を支える食料を効率的かつ安全に生産し、生態環境の保全に配慮しながら農業を实践できる理論と技術を有する人材を養成します。生物を中心とした自然科学の探究から、食料生産や農業とその関連産業発展への貢献に熱い情熱と強い意欲を持つ人、そんな皆さんと一緒に最先端の研究に取り組むことができるのを楽しみにしています。

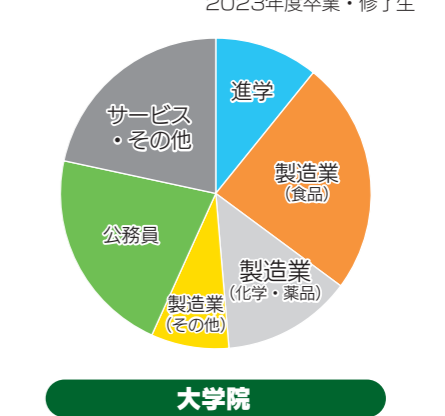
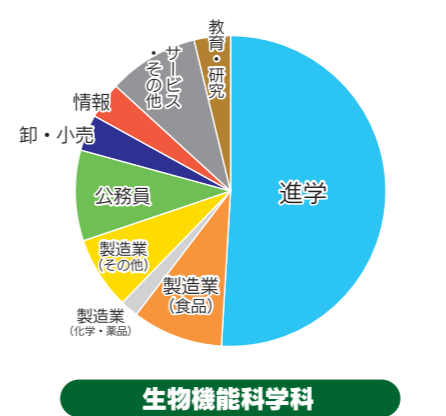
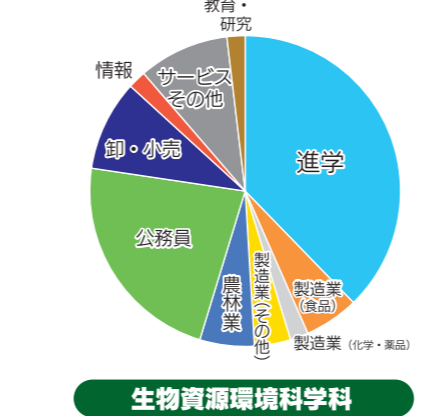
生物機能科学科

教授
小崎 紳一



現在、科学の発展によって生物の持つ多彩な機能が広範に利用されています。生物機能科学科では、そうした機能を遺伝子、タンパク質、化合物、細胞の解析を通して解明し、食、健康、環境に関する課題解決に貢献できる人材の育成を目指しています。化学、生化学、微生物学、食品化学を4本の柱に情報科学を加えた講義と多彩な実験を盛り込んだカリキュラムに基づいて、生命の仕組みの化学的理解と高度なバイオ実験技術を習得できるように体系的な教育を行っています。そして、食品・医薬品・化学・環境などの分野で活躍する卒業生を輩出しています。

卒業後はこんな未来が開けています



- 企業等例**
- 製造**
 (食品・農業)：株式会社不二家、全農パルライス株式会社、日清食品株式会社、カゴメ株式会社、キユーピー醸造株式会社
 (化学・薬品)：宇部マテリアルズ株式会社、フマキラー株式会社、富士レリオ株式会社、南海化学株式会社
 (その他)：株式会社日本製鋼所、グンゼ株式会社

- 卸・小売**：株式会社アデリー
サービス・その他：一般財団法人材料科学技術振興財団、九州電力株式会社
公務員：国土交通省、農林水産省、植物防疫所、山口県、熊本県、大阪府、岡山県、長崎県
教育・研究：国立大学法人 香川大学、国立大学法人 長崎大学